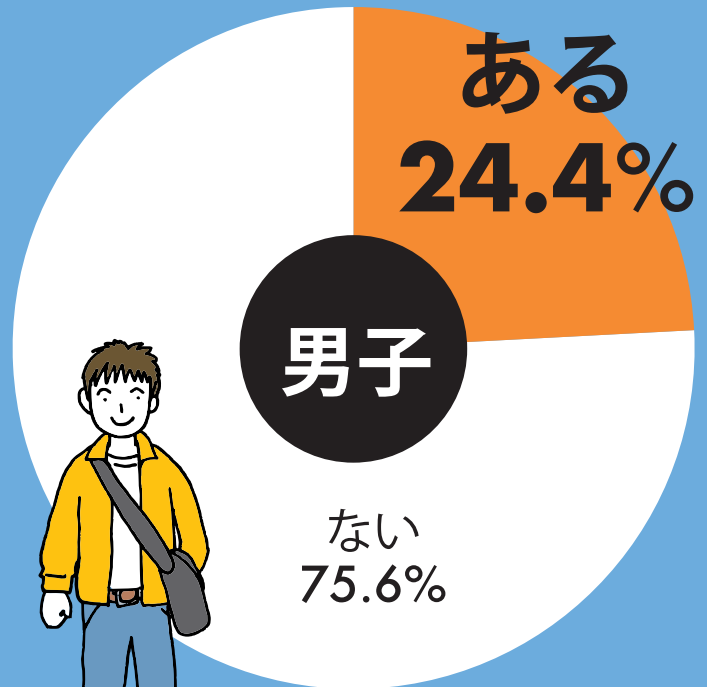
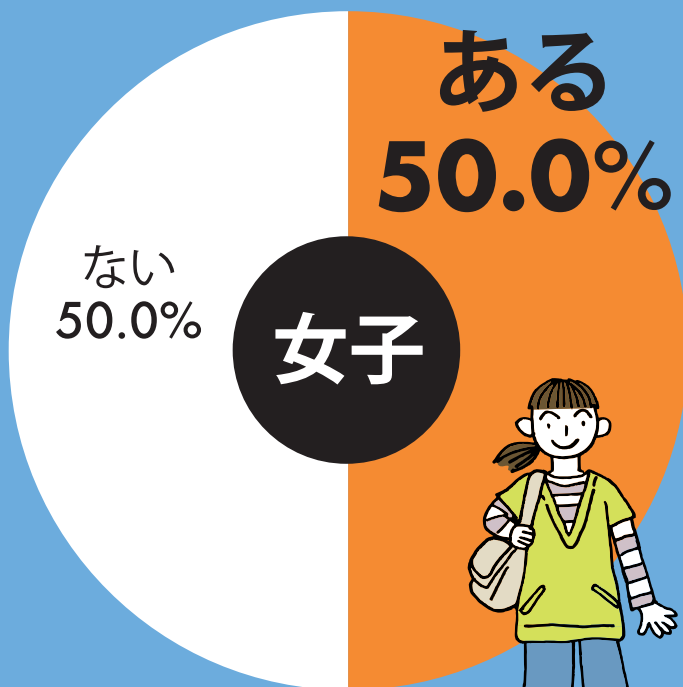


14歳と 一緒に考える、 男女共同参画。

Q 大人から「女らしくしなさい」「男らしくしなさい」と言われたことはありますか？



- 母から、行儀が悪かったとき
- 母から、言葉使いが悪いとき
- 父から、あぐらをかいていた時に言われた
- だらしない格好でいたとき
- 見た目(洋服とか)
- 父から、「女の子なんだから、もっとおしとやかにしなさい」と言われた
- 父から、整理整頓をしると言われた

- 母から、怒られたとき
- 男のくせに、怖がりだと言われた
- 父から、細かいことで悩んでいるとき
- 父から、くよくよしているときに、「男らしく…」と言われた
- はきはしないうとき、はっきり答えないうとき

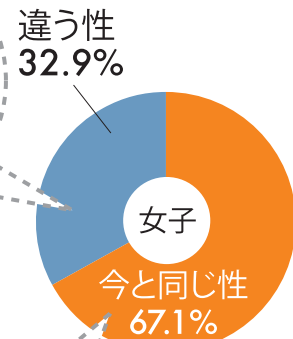
14歳の目に「男女共同参画」は

どんなふうに映っているんだろう？

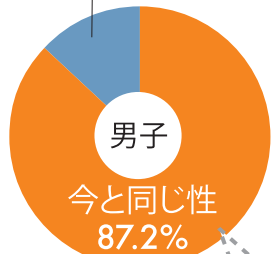
もし生まれ変わるならば、
今と同じ性がいいですか。
違う性がいいですか

「ねっとわあく」編集部によるアンケート(平成21年6月)

- 男の方が楽しそうだから
- 男なら、周りを気にせず好きに行動できるから
- たくさんの仕事に就くことができるし、給料がたくさんもらえると思う

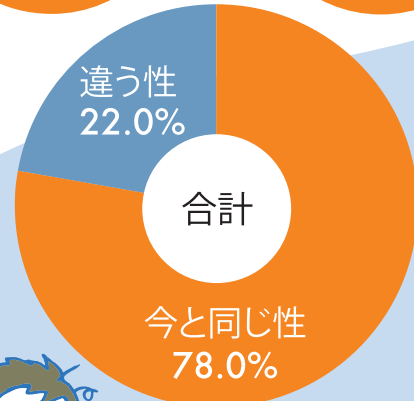


違う性 12.8%



- 服が選べるし、楽しい感じがするから
- 女の方が楽しいと思うから
- 男からの目線を感じてみたい
- いろいろ、優遇されているように思う

- 女の子の方がおしゃれができる
- 今の生活が楽しいから
- 男の人は、色々な責任があって大変そうだから
- 女のほうが得な感じがするから
- 男は仕事がきつそう



- 男の方が体力や力があるから
- 男子の方が友情もあってスポーツもできるから
- 女は家事が大変そうだから



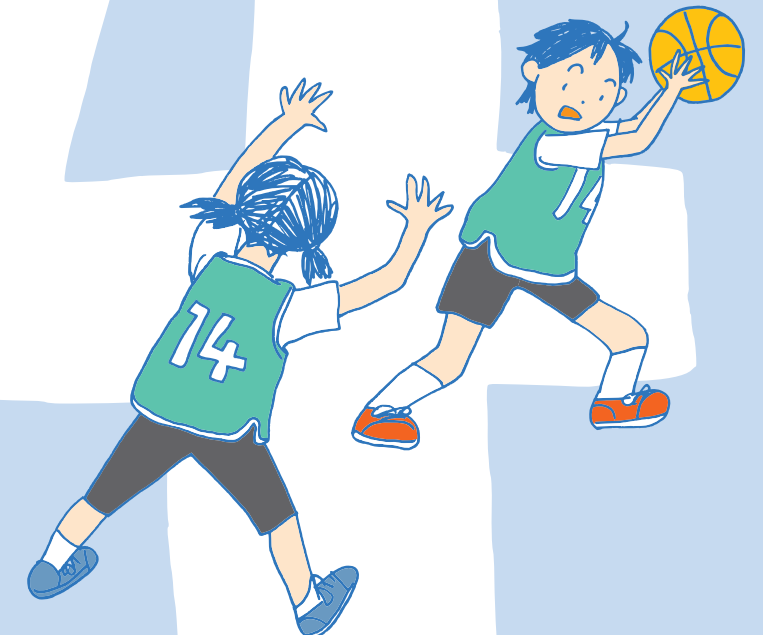
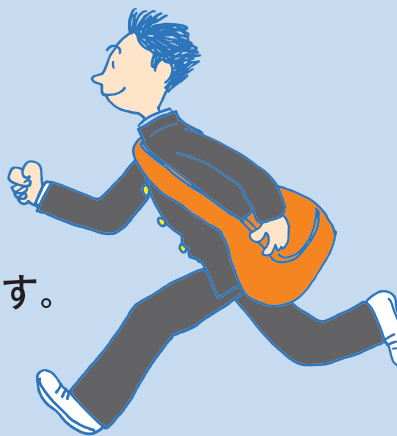
男子は今と同じ性(男性)を選んだ人が9割近く、女子で今と同じ性(女性)を選んだ人は7割弱でした。つまり、女子のほうが今の性(女性)に否定的な人が多いことがわかります。とはいえ全体では8割弱が「生まれ変わっても今と同じ性でいい」と今の性を肯定しています。その理由としては「今の人生が充実している、楽しいから」という意見が目立ちました。

注目すべきは、異性に対する意見です。「女子は服が選べて楽しそう」「男子は体力があってスポーツもできる」など、同世代の異性を見て感じている意見と共に、「女子は家事が大変そう」「男子のほうがたくさんの仕事に就いて給料がたくさんもらえそう」など親や大人たちの姿を反映している意見がありました。

もう子どもじゃない。まだ大人じゃない。
こころとからだ揺れ動く中で、
「女性」「男性」を強く意識し始める14歳。

大人への入口に立つ彼らは、
これからの「男女共同参画社会」の
主役となる世代です。

思春期真ただ中の14歳たちと一緒に、
アンケートやワークショップ、座談会を通して、
「男女共同参画」で大切なことは何かを探っていきます。





座談会

「女らしさ」「男らしさ」より、 もっと大切なものは 何だろう



編集部アンケートによると、大人から「女らしくしなさい」「男らしくしなさい」と言われたことがある中学生は、女子が50%、男子が24.4%でした(表紙グラフ参照)。性別に関係なくのびやかに生きているように見える現代の中学生たち。でも彼らの周りには、意外と古い固定観念が残っているのかもしれない。男女6人の中学生に恋愛など身近なテーマを通して、「女らしさ」「男らしさ」についての本音を話してもらいました。

…全員チェック表に記入する…

川野／チェックをつけた項目はいくつありましたか。

市井／僕は5個です。

山田／私は4個です。

豊島／5個つけました。

石川／4個です。

深沢／6個です。

坂根／7個つけました。

大畑／チェックした項目の中で、これが一番大事だと思ったことを教えてください。

坂根／私は「気配りができる」です。

深沢／私は「自分より背が高い」です。

恋愛観に、男女の固定観念が見え隠れ

川野／午前中のワークショップで、なんとなく男子と女子の性差や固定観念について気づいてもらえたと思います。座談会では、それをさらに深く考えていきます。

大畑／最初にこの「恋愛チェックシート」(5ページ参照)を使って、みんなの恋愛観から男女の固定観念について考えてみましょう。このシートには、「彼は自分より背が高いほうがいい」「彼女は料理上手なほうがいい」など、一般的に男女が恋人に望む条件がいくつか書かれています。自分が当てはまると思うものをチェックしてください。

■司会者 ねっとわあく編集部 **川野 泰寛**(静岡大学4年)、**大畑 結香**(静岡文化芸術大学4年)
■参加者



市井 将平さん ICHII SYOUHEI 静岡市立服織中学校 2年 バスケットボール部所属。好きなマンガは「スラムダンク」。

山田 真梨子さん YAMADA MARIKO 静岡市立服織中学校 2年 吹奏楽部所属。スカートよりパンツスタイルが好き。

豊島 勇斗さん TOYOSHIMA YUUTO 静岡市立清水第一中学校 2年 生徒会執行部。好きなマンガは「もやしもん」。好きなことはゲーム。

深沢 聡子さん FUKAZAWA SATOKO 静岡市立城内中学校 1年 バスケットボール部所属。好きなマンガは「ワンピース」。好きな動物は「カメ」。

坂根 健さん SAKANE KEN 静岡大学附属浜松中学校 3年 生徒会執行部。アンサンブル部所属。ニックネームは「歩く辞書」。

石川 由美子さん ISHIKAWA YUMIKO 静岡市立安東中学校 3年 芸術部所属。好きなマンガは「鋼の錬金術士」。

座談会内のグラフは特別な断りがない限りは、本誌編集部が静岡県内の中学生に対して実施したアンケートから作成しています。
※ねっとわあく編集部 「男女共同参画」についての意識調査/対象 静岡県内の中学生 男子85名、女子73名 平成21年6月実施

中学生ワークショップ

「女らしさ」「男らしさ」って何?

～マンガの登場人物を通して、
性差の固定観念に気づこう～

参加者の中学生のみなさん



7月12日 日曜日。ねっとわあく編集部は中学生のみなさんと一緒に、「男女共同参画」を考えるワークショップと座談会を行いました。午前中はウォーミングアップを兼ねて、マンガを使ったワークショップを開催。身近なマンガのキャラクターを通して、性差の固定観念に気づいていただくことがねらいです。テキストとして使用したマンガは、「乙男(オトメン)」「Wジュリエット」「泣き顔にKiss」「薬師寺涼子の怪奇事件簿」の4作品。いずれも、男女の固定観念にとらわれないユニークなキャラクター設定に特色があります。

まず、中学生のみなさんに各キャラクターの個性を文章化した資料を渡し、各々が男性か女性かを考えてもらいました。「編み物や料理が上手だから女だと思う」、「背が高いから男でしょう」「優しく面倒見がいいのは女の人のイメージ」「ヘビやカエルが苦手なのは女子っぽい」など、さまざまな意見が飛び交う一方で、「この情報だけじゃ女か男か判らない」と首を傾げる姿も。



中学生と年齢が近い大学生の2人がワークショップを進めました

お菓子をつまみながら、おしゃべりがはまりました



そして答え合わせの結果、8人のキャラクターのうち、性別が正解だったのは4人でした。正解を伝えると、「えー、男じゃなかったの?」「これ、女の人なんだ!」という驚きの声。さらに司会者が各キャラクターの特色を読み返しながら、「かわいいものが好きなのは、女子に限ったことではないよね?でも、かわいいものが好きな男子を、男らしいとは思わない?」「スポーツ万能で頼りになる人は、やっぱり男の人のイメージかな。でもそういう人は女子にも男子にもいるでしょう?」と問いかけ、私たちが無意識のうちに抱いている「女らしさ」「男らしさ」の固定観念について、分りやすく説明しました。



クイズの答え合わせ 正解が気になります



ランチは編集部 キーマカレ!



乙男(オトメン)

白泉社花とゆめCOMICS 管野文 著
武道に優れたイケメンでありながら、かわいいものが好きで乙女チックな心をもつ男の子と、料理や裁縫が苦手、力仕事が得意な女の子のラブストーリー。趣味や特技の男女逆転を通して「男らしさ」「女らしさ」を問いかけています。



薬師寺涼子の怪奇事件簿

講談社 田中芳樹 原作 垣野内成美 画
東大卒警視庁キャリア官僚の美女が、従順なノンキャリアの男性を部下に従えて、怪奇事件を次々と解決していくファンタジー。仕事、キャリアにおける性差の固定観念を覆す、大胆なキャラクター設定が魅力です。



Wジュリエット

白泉社花とゆめCOMICS 絵夢羅 著
わけあって女装をしている男の子、大柄でボーイッシュなファッションを好む女の子のラブストーリー。ファッション、ヘアメイクなど外見のあり方を通して、「男らしさ」「女らしさ」を考えるヒントが含まれています。



泣き顔にKiss

双葉社 ツムギ 著 ささきゆきえ 画
原作はケータイ小説。甘えん坊で泣き虫、寂しがり屋の女子高生と、優しく気配り上手な年上の社会人男性のラブストーリー。恋愛におけるステレオタイプの「男らしさ」「女らしさ」が存分に盛り込まれています。